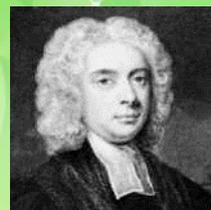


科学研究費「基盤研究（C）」（研究課題番号 19K01571 代表者：有江大介）による研究集会

第15回バトラー研究会のお知らせ



今回の研究会では、松本哲人氏（松山大）と長尾伸一氏（名古屋大・名）による2つの報告があります。研究会メンバー以外にも開かれておりますので、商業社会化する18世紀ブリテンの思想状況、バトラーとスコットランドとの関係などにご関心ある方々の参加を歓迎致します。ご希望の方は、以下のURL（ホスト：ICU 矢嶋直規氏）からご参加ください。

日時：2022年5月1日（日）13:30-17:30

方法：Zoom会議により開催（ホスト：矢嶋直規氏・ICU）

- ・トピック（会議名）：バトラー研究会
- ・ミーティングURL、ミーティングIDは以下です。

トピック：バトラー研究会

時間：2022年5月1日（日）午後1時15分頃よりオープン

Zoom ミーティングに参加する

<https://icu.zoom.us/j/97186707861>

ミーティングID：971 8670 7861

パスワード：1692

なお、本研究会の録音・録画はご遠慮ください。

（研究会終了後、メンバーによる共同論文執筆に向けてのスケジュールの確認と意見交換等を行います）

第1報告：「18世紀イングランドにおける商業社会と宗教：バトラー、ペイリー、プリーストリー」

松本哲人（松山大学経済学部）；司会 有江大介氏

本報告は18世紀イングランドの商業社会がどのような形で認識されたのかについて、特に経済と宗教はいかにして調和すると考えられたのかについて考察する。特に個人が経済的利益を追求する利己心とキリスト教的な慈愛心はいかにして調整されるのか、その時に社会において宗教はどのような役割を果たすのか。そのような問題について、その時代を代表する思想家であるバトラー、ペイリー、プリーストリーに焦点を当て明らかにしたい。（最初の各学会へのご案内の際、「ペイリー」のところを「プライス」と誤記いたしました。お詫びして訂正いたします。）

第2報告：「リードの思想形成とバトラー」 長尾伸一氏（名古屋大・名）；司会 大久保正健氏

本報告は、『ニュートン主義とスコットランド啓蒙』（2001）、『トーマス・リード：実在論・幾何学・ユートピア』（2004）を著し、社会思想史と科学史という複合的視点から18世紀スコットランドの思想史研究をリードされている長尾氏による、バトラーとスコットランド啓蒙との関連を探求する報告です。

<予定スケジュール>

13:30-13:45 参加者の自己紹介

13:45-15:15 第1報告と討論

15:15-15:25 休憩

15:25-16:55 第2報告と討論 公開研究会はここで終了

17:00-17:30 バトラー研究会メンバーによる協議

（文責：有江）